

# 菱肥会ブロック交流研修会開催

民主党農政がスタートし大きく農業が変革する流れの中、菱肥会ブロック交流研修会が11月5～6日に京都市で開催された。当初、10月8～9日開催予定であったが、台風18号の直撃を受け、急遽中止・延期を決定し、今回の研修会となった。参加者は当初予定とほぼ同じの全国から会員27社、賛助会員・事務局で総勢39名となり、西部菱肥会が中心になって企画運営された。



菱肥会全国連合会豊田理事長、当社上杉社長の挨拶の後、西部菱肥会中島理事長より歓迎の挨拶、及び(株)中島社の関連会社(株)日隆の園社長より『肥料商の新たな取組』として、講演があった。同社関連会社の中島美雄商店では、以前より《夢シリーズ》冷めても美味しいおコメ“夢ごこち”で、国内外で契約栽培を展開しているが、この夢シリーズで太いパイプの出来た台湾政府から、マンゴーの日本国内独占販売権を得て、(株)日隆社より“寒冷地でのマンゴー栽培プラントの設計・施工”を全国展開している。各地の状況にあった加熱・保温施設(例えば地熱利用・醗酵熱利用)を提供し、安価で安定的なマンゴー栽培を目指す。

続いて、京都府亀岡市内で、激辛トウガラシ“京都ハバネロの里”を展開する(有)篠ファーム高田代表より『京野菜の新たな取り組み』について講演があった。日本伝統野菜のメッカである京都に、メキシコ原産の激辛トウガラシ“ハバネロ”を導入し、焼肉のタレ・ハバネロ酒・ハバネロカレー等を上市、栽培から加工まで一手に担う。又、限界集落の活性化を目指して『ふるさと野菜のおすそ分け』を企画し、一人暮らしのお年寄りを作る野菜を都会の購入者に宅配する。

最後に、京都府立医科大学消化器内科学 / 内藤先生より『医農連携(医から見た農業のあり方)』として講演を戴いた。わが国の健康寿命延伸対策に必要な事はガンと動脈硬化性疾患の予防対策である。疫学的事実より判断すると『肥満』『メタボ』対策が極めて重要であり、対策としてカロリーを制限し、年齢関連疾患の発病を抑制する。長寿遺伝子Sir2タンパク質を活性化させる。更に不足しがちなカルシウム・鉄・ビタミンは各種野菜から摂取する事を勧める。医から見たこれからの農業で、期待される作物として、総合ビタミン剤のようにビタミン・ミネラル豊富な野菜。特定の機能性成分を高濃度に含有した ×高含有機能性野菜の開発・栽培が急がれる。

最後に解体新書の著者である杉田玄白の『養生七不可』を紹介したい。

1. 昨日の失敗は後悔しない。2. あしたのことは心配しない。3. 食べるもの飲むもの度を過ぎない。4. 変わった食べ物は食べない。5. 何でもないのでむやみに薬を飲まない。6. 元気だからといって無理をしない。7. 楽をせず、適当に運動を。

